

DU WATCH

劣化ウラン研究会ニュースレター 第8号(2003/9)

内 容

1. 劣化ウランから見えるもの
2. [ジャミーラ高橋さん(アラブイスラーム文化協会代表)に聞く]
『爆撃下のイラク、そしてその後は?』
4. ニュースクリップ

劣化ウランから見えるもの

7月1日にアジアン・スパーク主催の集会「劣化ウランから見えるもの」が東京文京区の文京区民センターで開かれました。そのときローレン・モレさん(独立系科学者、元ローレンスリバモア研究所)ときくちゆみさん(グローバル・ピース・キャンペーン発起人、「戦争中毒」翻訳者)と劣化ウラン研究会の山崎久隆が話をしました。

その中からローレン・モレさんのお話の要約を紹介します。

私はローレンス・パークレー研究所とローレンス・リバモア国立研究所で働いていました。核兵器の研究や核兵器汚染除去の研究をしていたが、2000年原水禁世界大会で日本に来て、私の人生は変わった。私ははじめの研究所では火山の研究をしていた。次の研究所では核廃棄物の汚染除去作業に従事していたが、核兵器がどういったものか知らなかった。しかし、研究所で見てきたものは様々な科学的サギでした。スター・ウォーズ計画や高レベル廃棄物のユッカマウンテンプロジェクトその他さまざまなプロジェクトを見てきたが、真実ではない、ウソの科学が行なわれていた。また女性や少数民族の労働者への差別があったり、汚職がはびこっていたりして、91年に研究所を去った。その後、数年何をしてもよいか分からなかったが、2000年に日本に呼ばれて、自分の人生の道を決めて独立系の科学者になった。そして、放射能やその人体や環境への影響について学んできた。ローレンス・リバモア研究所で働

いて時に科学者というのは企業に売春婦のように媚びを売るものだということがわかった。

今、日本の人たちのおかげで私は独立系の科学者として、市民のための科学者として、満足した人生を送っている。

劣化ウランの話をするが、米政府はいつから、このことを知っていたのか、という話しをします。1943年マンハッタン計画に参加していた3人の科学者が、計画の指導者であったグロブス司令官に手紙を書き、提言をして以降だと思う。広島、長崎に原爆が落とされる1年半以上前に科学者たちは「戦闘地に放射性兵器を使用しなさい。核兵器研究所でできた核廃棄物を戦闘地にばらまけばよい」と提言した。メモは当時、機密であったが、現在それはホームページで見られます。(<http://www.mindfully.org/Nucs/Groves-Memo-Manhattan30oct43a.htm>)

私はメモを発見したとき大変驚き、怒りを感じた。放射性の細かい粒子を戦場にばらまく、銃

からでも爆弾からでもばらまいて戦場を汚染させればよいことが、43年には分かっていた。

劣化ウランとは

劣化ウランは核廃棄物で、核兵器プログラムや原発からも出てくるもので、それは格好の材料なのです。というのは、3000度から5000度で燃焼し、そのうちの7割が大変細かい粒子となります。燃焼すると、0.1ミクロン（1千万分の1メートル）から10オングストローム（10億分の1メートル）サイズの粒子となる。10オングストロームは現在のどんな精巧な電子顕微鏡を使っても見えない大きさである。赤血球でさえ10ミクロンの大きさがある。この劣化ウランの粒子は、0.1ミクロンである。長時間、風下に住んでいる住民や兵士が何十億という粒子を体内に取り込むと、約70%は血液の中に入り込んでしまう。高熱で燃焼したものは酸化ウランとなり、不溶性となって体外に排出されず、何年も体内にとどまってしまうものがある。

ウラン238は鉛になるまでに4段階（注）の崩壊を行っており、崩壊した新たな放射性核種は、元のウラン238よりも放射能の高いものである。だから、体内に入ったウラン238は崩壊し、生物的影響の高い放射能を放出していく。汚染のクリーン・アップ作業に従事していた退役兵士に話しを聞いたところ72時間以内に具合が悪くなっていた人がいた。つまり、早い時期に影響が出てくる。

43年のメモでは、放射能が強ければ強いほど、量が多ければ多いほど、たくさんの人を殺すことができる、明確に書いてあった。さらにこの兵器に関する防護服は存在しない。きめ細かなフィルターや衣服を通過して人々は被ばくし、これを濾過するような装置は存在しないと書いてある。どのように劣化ウランは空気、土壌、水、食料などを、最終的には血液を汚すか分かっていた。

日本の外務大臣が劣化ウランは危険性がないと述べたようだが、すでに米政府は43年から、劣

化ウランの影響は理解していたと私は言いたい。（注：ウラン238から鉛206までの崩壊は、実際には8回のアルファ壊変と6回のベータ壊変を起こすが、モレさんの意図は、主要な崩壊系列核種の意味と思われる。）

劣化ウランの違法性

兵器が違法か合法か？ 兵器は全て違法であっておかしくないのですが、兵器が違法であることを問う四つの要素がある。劣化ウランについては四つの基準からみても全ての条約や国際法に違反していることがわかっており、この特質は43年からわかっていたことである。

1) 時間的要素

一つ目の要素は時間的要素である。兵器は戦闘が終わってからも効果を発揮してはならない。地球の年齢は45億年である。劣化ウランの半減期も45億年である。放射能の影響がほぼ安全になるまでには少なくとも半減期の10倍の年数を要する。つまり、アフガニスタンやボスニアで、放射能の影響がなくなるには400億年必要である。

2) 環境的要素

そして、2番目の要素は環境的な要素である。兵器は環境に不当な汚染を引き起こしてはならない。しかし劣化ウランは全ての生物、植物、動物、バクテリアや人間をふくめて全ての生物を汚染する。

3) 領域的要素

3番目は領域的な要素である。兵器は戦闘地の域外で効果を発揮してはならない。ボスニアで空爆が行なわれていた時期、ハンガリーで大気中の劣化ウランをモニタリングした。そしてギリシアでも測定していたが、これを発表した人は解雇された。別の科学者はクウェートにおいて四季を通じて劣化ウランのレベルを観察し、季節によってレベルが変わっていた。このように劣化ウランに関しては「見えない戦争」である。仮に1000マイル離れ、何千マイル離れたところでも拡散し、人々は知らず知らずのうちに病気になってしまう。

4) 人道的要素

4番目の要素は、人道に関する要素である。兵器は非人道的な形で人を殺傷してはならない。森住卓の『湾岸戦争の子どもたち』という写真集を見ても、イラクの子ども、大人が放射能兵器によって苦しんでいる。米兵も例外でなく、米退役軍人事務局が湾岸戦争のミシガン州の退役軍人150人を調べたところ、湾岸戦争後帰ってきてから、除隊した軍人の子どもの67%が非常に重たい障害を負って生まれた。

被害の実態

イラクの子どもたちと同じように退役軍人の子どもたちが無脳症や眼がなくて生まれたり、手足が欠損したり、または血液の病気にかかっていたり、こういう悪夢が起きている。さらに湾岸戦争に参加した兵士70万人のうち、約3分の1、23万人が永久に何らかの医療処置をうけなければならない身体となっている。退役軍人で精子が汚染された兵士はそこから妻が引き継いでいく。兵士が先天性異常を持つ子供を産んでしまうと、一層軍から離れられなくなる。米国の保険制度ではもともと症状が出ている子どもは保険に入れないので医療費を得るために軍から離れられない。

カナダ人の退役軍人の未亡人に話を聞いた。帰ってきた時彼の様子は全く違う人になっていた。彼の目はヘーゼル・ナッツのヘーゼル色だったが、帰ってきたら、明るい青色になり、そのうち透明になってしまい、98年に死亡した。彼女はカナダの劣化ウランの研究しているUMRCに、彼の体組織のサンプルを持って行った。研究所のドラコピッチ博士が分析したところ、体のあらゆるところから劣化ウランが検出され、あらゆる所、脳にも、骨にもガンが生じていた。

さらにある兵士は自殺しようとしたり、気分の揺れがあったりして7年後に死亡した。放射能は衝動をつかさどる脳の一部にダメージを与える。アフガニスタンの戦争では、ノース・カロライナに住んでいる兵士の4人が、帰国してから2

か月以内に奥さんを殺害したという。

米国は知っていた

ロス・アラモス研究所のグローブス・メモの内容もそうですけど、74年から99年の間に国務省の行なった研究というものが何百もあるのです。リサーチが行なわれ、劣化ウランに関しては全て確認されている事実をもう一度きちんと言いたい。

今、お見せしているのはペンタゴンの内部資料である。ペンタゴンのダグ・ロッキー少佐からいただいたものです。ロス・アラモスで発行されたもので、軍人が汚染除去作業をしている時に、劣化ウランの環境への影響についての項目は、虚偽の報告をせよと書かれている。

こちらの書類はペンタゴンの陸軍トップが命令したものであるが、劣化ウランで病気になった兵士に医療処置をせよというものです。

こちらは、日系人の将軍が書いたもので、劣化ウランについて多くのことを知っており、医療処置や環境への影響について書いてある。これらのことから、米政府は人体や環境への影響、劣化ウランがどのように危険なものであるかを知っていた。だから、このことを知った皆さんは川口大臣に手紙を書いて下さい。

ガンが世界的に蔓延しているわけですけど、本当にガンの蔓延していることを知りたいならば、劣化ウランが投下されて全世界的に広がるまで待っているよ、みたいなことを科学者の一人が言っています。

10月16日から19日にドイツのハンブルグで、劣化ウランについての重要な国際会議が開かれ、さまざまな分野の法律家、科学者、活動家そして被害者の人たちが招待されています。

本日は参加していただいて感謝します。これ以上に私ができる重大なことはないと思う。3年前から通訳してくれている竹野内真理さん、ありがとうございます。皆さんありがとうございました。(要約 福島和夫、同時通訳 竹野内真理)

[ジャミーラ高橋さん(アラブイスラーム文化協会代表)に聞く] 『爆撃下のイラク、そしてその後は?』

問 ジャミーラさんは米英のイラク爆撃下に、Human Shields(ヒューマン・シールド)としてイラク国内に留まっていたそうですがそのときのお話を聞かせてください。

答 戦争が始まる直前の、12月と年明け2月にイラクに市民調査団を出しました。湾岸戦争の時に一方的に、きれいな戦争のアメリカのプロパガンダが流れました。私はイラクの救援をずっとやってきて戦争の実態を知っていましたから、一人でも多くの人にありのままのイラクと、戦争をしたらどうなるか、見たもの考えたものを持ち帰って貰いたかったのです。2月の調査団派遣はもっとしっかり見ようとの滞在希望者があり、ヨーロッパからのHuman Shieldsグループに参加して、いわゆる「人間の盾」になりました。ただHumanを人間と訳すのは誤解を生みます。肉体は爆弾の盾になり得ませんから。みんなそんなバカなことをするために参加したのではなくて、戦争を止める力、イラク市民を守る力になりたいと思ったのです。「平和の盾」と言い換えて欲しいと思います。

この勇氣ある行動を理解しないどころか、平和憲法を持つ日本の立法・行政は平然と戦争に加担する方向に突き進む一方、邦人保護課長の「あなたは他人の命を危険にさらす殺人鬼だ」との言葉にいたたまれず、逃げるように一足先にイラクに向かいました。

3月16日未明、ダマスカスにいた2名を連れてバグダッドに到着しましたが、その日の夜「国連の査察団が引きあげた」という情報が入ってきました。私の希望は、「国際人1000人を集めて、バグダッド

の凱旋広場とバスラの砂漠に、広島のように『NO WAR! NO DU!』と大きく描いて、爆撃を抑止したい」でした。その希望を果たすどころか、明日にでも爆撃が始まるかもしれない状況に、今度は「すぐにイラクを出なさい!」と出国を急がせる立場になって、自分でもびっくり。誰の命も大切なので、みんな出て欲しかったのです。でもどうしても留まるとがんばった人、村岸由季子さん。私は負けました。そして彼女に勇氣を貰いました。

寺沢上人の先導で各国からの100名ほどが橋の上に集まって、それぞれ自分の言葉で「へいわ～」とリレーして、チグリス河に灯籠を浮かべました。その時のイラクは平和そのものだったのですが、翌朝未明震度3の揺れを合図に砲弾がぶち込まれて来ました。どこからともなく「アッラーフ・アクバル アッラーフ・アクバル(神は偉大なり) ラー・イラーハ イッラッラー(アッラーのほかには神はない)」と唱念する声が聞こえたのが、対照的に荘厳でした。だんだん激しく、昼も夜も。「アッラーが怒って!」と囁かれた、オレンジ色の風景、砂嵐の日が2日間続きました。その合間を縫って、降る弾に向かって「ノー・ボンピング! ストップ・ザ・ボンブ!」とこぶしを突き上げてデモをしました。

爆撃下でHuman Shieldsは60名足らずに減っていましたが、一番がんばったのは日本人。都合で帰る人が出るとまた入ってくる人がいて、常時14名はいましたから、Human Shieldsを引っ張っていたのは日本人でした。ライフラインの浄水場や発電所、変電所などに寝泊りして夜の爆撃に備えましたが、昼間は施設を出て、爆撃されたところを見に行ったり、病院に担ぎこまれただけが人を見舞ったりしました。バスラに医薬品をどうしても届けたくて、レッド・クレセント(赤三日月社)のオフィスや国際赤十字社のオフィスを訪ねたりしました。

サダム子供病院の救急室に行ってみると、血だらけの兵隊さんに混じって、昨日レッド・クレセントを尋ねたときに面談してくれた彼が血を流している。2時間前軍の施設に砲弾がぶち込まれ、そのあたりで向かい側のレッド・クレセントの病院とオフィスが壊されたのです。おまけは、軍の隣りの広い施設は毎年11月実施の「国際見本市会場」、それが見事に壊されていたのです。米英の爆撃の意図がありあり。貿易の先を越された妬み、石油利権の約束を反故にしたい彼らの戦勝の目算ですね。



爆撃が激しくて動けなかった中を、バスラの方角に向けて80kmのヒツラという市に行きました。その診療所は家族をいっぺんに失った人たちが、腕をなくしたりして呻いていました。クラスター爆弾の破片がお尻いっぱい散らばって、身をよじて苦しむ少年。1時間に140人もの患者が運び込まれて診療所が血の海だった、これは悪魔の仕業だと話す医師を慰める言葉が見つかりませんでした。

問 今回劣化ウラン弾も多数使われたそうですが？

答____「バグダッドがB52の縦断爆撃で、あなたたちは炭になる」と脅かされてのイラク行きでしたが、実際は違ったのですね。弾より音の方が早いですから、慣れてくると音で弾の行く先がわかりました。震度3にも揺れるバンカーバスター爆弾が大統領官殿やテレコミュニケーション・センターや頑丈な官庁に打ち込まれましたが、この砲弾には破壊威力抜群の劣化ウラン弾が使われています。5月に南から北の爆撃の様子を見て回りました。バグダッドでは、たった一つ石油省を除いて、政府の建物が見事に全部壊されていました。地方行政の建物や警察署、イラクの石油会社、学校や病院もでしたが、特に酷かったのはバグダッドで、もう機能しないテレコミの建物をまた2・3度やったようで、爆弾を全部落として帰ろうというふざけた爆撃でした。この爆撃に使った劣化ウランは湾岸戦争の10倍近く、2000トン以上との推定ですね。これから被害者が加速度的に出てきます。道端に不発の劣化ウラン弾が落ちていのですよ。「それは、危険だよ！」と子供が教えてくれるのです。

問 ツワイサではIAEAの管理化にあるはずの核施設から、住民によってイエローケーキなどの核物質が盗まれました。その被害も深刻なようですね。

答____ツワイサは、昔から狙われて来ましたね。一度目はイスラエルにより、二度目は湾岸戦争のときの空爆で、三度目が98年の三日間爆撃のとき、そしてこの度。ツワイサは塙に囲まれた一つの町で、家族持ちの警備兵が3000人ほど常時いたそうですが、爆撃がひどくて逃げ出したのです。爆撃がおさまると、占領兵が門を開けて近くの住民の略奪を許したのです。「アリババ」が合言葉で、イエローケーキの入ったドラム缶を盗み、黄色い粉を川で洗って、各家で水の貯蔵に使い出したのです。すごいことでしょうか？住人の話ではもう死人が出ているらしいですよ、放射能の急性毒性で。なぜ米軍側がツワイサの略奪を許したのでしょうか。今後計り知れなくバグダッドで出る劣化ウランによる被害が、住人が持ち出したイエローケーキのせいと擦り付ける

魂胆ではないかと、疑う方が間違っているというのかしら。

私なんか、爆撃の17日間、そして爆撃後もう2回もイラクに行っていますから、体中が痒くて、掻くと皮膚がはがれ、皺にそってひび割れたり困っています。劣化ウランに含まれる重金属の毒性にやられたのですね。

問 爆撃終結後2度訪ねたイラクの状況を聞かせてください。

答____世界最強の軍事国家が、2度の大戦争（イラン・イラク、湾岸）とその後続く経済制裁で瀕死の弱小国家に成り下がった国を叩いたのです。湾岸戦争以後、軍隊の建て直しも兵器の補充も殆どする余裕はなかった国です。昨年8月8日がイ・イ戦争の終結記念日でその日に国民が臨戦態勢に入り、家庭に銃と軍服が支給されました。最新兵器の前に、国民総出で竹槍で戦うといった気概ですね。爆撃下では地域の青年たちのボランティア兵士たちが町を守り、婦人会の人たちが炊き出しをして彼らを支えました。バグダッドの間屋街に行くと軍服を作ってくれる店がいくつかあります。戦時下では若者のファッションだったのですね。占領軍が町に入ってきた時は、彼らは服を押し入れにしまって市民にもどったので、兵隊はすつとどこかに消えてしまったというわけです。

とにかく国が体をなさないと言う事がどんなことか。この地球上で暴力によって一国がすつ飛ぶと言う事実が、許されていると言う事が不思議です。これは取り返しがつきません。行政も警察も機能していないと言うばかりでなくて、「民主主義」という名のもとに、今まで経済制裁で2\$~10\$(掛け持ちで仕事)の月給で家族を養ってきた不満をいっぴいためた人たちに向かって、政府や社会的に地位のあった人たちからの略奪を許して、社会の主人公にチェンジしたのです。こういうのを本当の民主主義というのでしょうか。今までの権力者ばかりでなく、知的財産を持った人たちを含めてイラクの中は空っぽです。多くの人たちが海外に逃げました。テレコミ・センターをいつになっても直さないのも意図的で、必要な衛星携帯電話とパラボラアンテナの店が新種の商売です。この衛星を飛ばしているのはアメリカ企業ですけれど。

これが欲しくて、特に若者の物欲思考が凄くなりました。6月行った時に、私はスリに他の者は引ったくりにあいましたが、やったのはハイティーンの逃げ足の速い若者です。経済制裁で食べられなくて餓死者が続出していた時も、他人のことを思いやる秩序のある社会がイラクだったので。イラク社会

は根底から変わってきています。12歳以下が人口の半分以上を占めるイラクの、子供たちが今後どんな風に育つのでしょうか。放っておけません。

問 ブッシュの戦争終結宣言後も襲撃される米兵が後をたたないといわれていますが。

答___6月に私のところの医療支援は、バグダッドの衛星都市、イラク西部50kmのファルージャや北西の130 kmのアル・ラマーディーの病院でした。ここはヨルダンに陣取った米軍が砲弾を撃ち込んできたところで、占拠した小学校でポルノ雑誌を配るなどで、住人の神経を逆なでした行為によって両者のドンパチがエスカレートしたところです。危険なので海外のNGOがなかなか近寄づかなく、医療不足が深刻でした。私たちが届けた時も、前夜ここで打ち合いがあって、犠牲者が出たと言うところを案内してもらいました。仲間の志葉玲さんが、ラマーディー大学を見学して写真を撮っていたら米兵に拘束され、8日間拘置され、ヨルダン国境で釈放されたという事件もあります。

いまは地上戦が始まっているのです。6月行った時にこういう話を聞きました。米英の占領は様子を見るために3ヵ月は許す、その後は「米英軍、出て行け！」の一斉行動を始めるという約束事がある、ということでした。アラブの革命は暑い夏ですから、今その最中です。イラク人には戦う大義があるので、イラク人と同じ数字の死者が出るでしょうね。

米兵士は戦闘もたいへんでしょうけれど、駐留するのがもっと大変だと思います。50を超えてくる気温の中で、鉄かぶとや防弾チョッキ、その他いろいろな装備をつけていなければならないでしょう。ある情報で、50の気温では一人一日10リットルの水が必要のところ、米兵は3リットルしかもらえない。熱射病で死んだ兵士もいるということです。食事も袋に入った戦場固形物を配給されているだけ。そのような状態の5ヶ月以上の駐留は、パニックを起こしそのうち帰還になるかもしれない。自衛隊も行かないかもしれない。

ただそういう状況になっても、イラク戦争は終わらない。パレスチナのように終わらない。戦争をさせておきたい輩がちゃんと手を打っているからです。

問 8月の広島、長崎の平和記念日にイラク人医師を2人呼んだということですが。

答___バスラ教育病院付属のがんセンター長ジョワード・アルアリ医師と、バスラ大学医学部助教授で、バスラ産科子供病院の小児科医ジャン・ガリブ医師を呼びました。本当は一緒にがん患者の二人の子供もよんで、日本で治療を受けさせるはずだっ



たのですが、クウェート通過のビザが間に合わなくて、アンマン経由はさせられないので連れてくる事が出来ませんでした。今回イラクの医師たちが被爆地の平和式典に参加できたということの社会的波紋は大きいです。本人たちも大変印象に残ったようですが、殊にジャーナール医師が広島平和式典の子供たち代表の発言を聞いて、涙ぐんでいました。バスラの病院の病床にある子供たちを思い出したのだそうです。原爆資料館では、NO DU ヒロシマ・プロジェクトの森滝春子さんの説明を聞き入り、原爆で廃墟となった広島の復興過程を食い入るように見て、いつかイラクも広島のように再建できるという希望を持ったようでした。

彼らは名古屋、岐阜、東京、埼玉、広島、福岡、長崎、神戸、伊丹の各地で、臨床医の立場から劣化ウラン弾の被害状況を持参の映像資料を使って伝えました。広島日赤原爆病院や広島大学原爆放射線研究センター、長崎大学医学部を訪れて、被爆者治療についても学びました。広島日赤原爆病院の副院長はチェリノブイリ原発事故の後、現地に入って被爆者治療をおこなった方です。

問 今後はどのような取り組みを行う予定ですか。

答___9月下旬にまたイラクに行く予定です。本格的にイラクの子供たちの治療に取り組みたいのです。それと、いくら病人を治しても帰る国がないのでは困るので、この占領を何とかして終わらせ、イラク人に希望を持てる状態にしてあげたいのです。今は地上戦です。どこから弾が飛んで来るかわからず、3月の爆撃の時よりもっとわかり難いです。犠牲者が出るかもしれません。でもこういうときこそ、状況を正しく外に出さなくてはならないのです。多くの人が状況を知って、監視したり、割って中に入らなければならないのです。自衛隊ほど訓練されていない人が行って、自衛隊ほどお金を使わないで、イラクのために120%の成果を上げたいのです。私たち市民の手でやらなければならないのです。

ニュースクリップ

劣化ウランによる影響か、米軍兵士に「謎の肺炎」

91年湾岸戦争の後に、「湾岸戦争症候群」という病が帰還兵士やその家族(子ども)に多発した。始めて劣化ウランが注目されるようになったのは、その原因物質として疑われたからだった。しかし米軍はそれを認めていない。

1999年のNATO軍によるコソボ空襲後に、同様の病がイタリア、フランスなどから派遣されたコソボ平和維持部隊(KFOR)から出始め、ガン死する兵士もいたことで、今度はヨーロッパが震撼した。それを受けて欧州議会において劣化ウランの使用中止決議が採択された。

イラク戦争でも大量の劣化ウラン兵器が使用され、その結果何が起きるか。もちろんイラクの人々に最も重大な影響を与えることは、91年湾岸戦争後に激増したガンや白血病などで明白なのだが、米軍は依然として「環境や人体に重大な影響はない」と主張している。

おそらく最初にクローズアップされる犠牲者は米英軍、あるいは「支援部隊」として入っている各国の軍隊からでるだろうと予想される。その一端であるかもしれない報道が、米国とサウジアラビアから期せずしてほぼ同時に流れた。

謎の病気がミズーリ出身兵士を殺す

スプリングフィールド・ニューズリーダー紙
エリック・エッカート / ニュースリーダー・スタッフ
2003年7月16日

ミズーリ州軍特技兵ジョシュ・ノイシュ20歳、彼は土曜日にドイツのハンブルグ病院で謎の病のために死亡した。第203工兵大隊に所属していた彼の死は、国防総省の死傷者リストで唯一のミズーリ州出身者である。

ジョシュ・ノイシュは7月2日ドイツに緊急空輸された。医者はそこで家族に「ジョシュの肺には体液が溜まっており、そのため肺炎で苦しんでいるようだ。」と伝えた。肝臓、腎臓、筋肉もまた衰弱していた。(抄訳)

原文 <http://www.informationclearinghouse.info/article4130.htm>

イラクの米軍兵士に謎の病気がつきまとう

イスラムオンラインネット&通信社
2003年7月17日

いろいろな謎の病気が、バグダッド空港周辺の米軍兵士の間で報告されたと、NATOに近い軍の情報筋が明らかにした。

7月17日付のサウジアラビアのアル・ワタン紙は、匿名の情報筋の発言を引用し、バグダッド空港周辺に配置された米軍兵士の間、謎の発熱、かゆみ、皮膚にできる傷と茶褐色の斑点といった症状が出始めたと報じた。これらの症状を見せた3人の兵士が、イラクの病院では治療を施すことができなかったので、ワシントンで薬物療法を受けるために空輸されたが、事実を大衆から隠すために、米当局者によって報道管制がかけられているという。

米軍当局者は、症状に対して説明を思いつかなかった。しかしNATOの専門家は、バグダッド空港を防衛するために配備された共和国防衛隊に対して使われた、B2爆撃機の誘導爆弾による強力な放射線に被ばくした結果と信じているという。

NATO専門家がイラクの放射性物質による汚染を測定した結果、次の世代にまで被害をもたらすかもしれない、人間と環境に対し破壊的な影響を与える汚染水準にあることを確認したという。

軍の情報提供者によれば、米英軍が使用した劣化ウラン兵器は、91年湾岸戦争の5倍以上に達すると断言したことを、4月25日付けの英国オブザーバー紙は引用している。(抄訳)

原文 <http://www.islam-online.net/English/News/2003-07/17/article03.shtml>

なお、この記事を紹介する形で、共同通信が9月4日に報道している。

秋葉忠利広島市長が劣化ウランキャンペーンにメッセージ

7月15日、私たち劣化ウラン研究会も参加をした「STOP!劣化ウラン弾キャンペーン」は、外務省と話し合いを持ち、米英軍の劣化ウランの使用やイラクへの支援そして自衛隊の派兵について意見交換をしました。キャンペーンに参加をしている市民の他、米国から来ていたローレン・モレさんや、ジャミーラ高橋さんも参加し、総勢で50名を超える参加者

でした。

イラク特措法に関連する国会論戦で、多くの議員が劣化ウランの使用に対する政府の立場を迫りましたが、川口外務大臣を初め政府側は「劣化ウランの使用は承知していない」と、正面から答えることを避け、逃げ続けました。劣化ウランの使用を認めれば、それが放射性物質であることから厳しくその是非を問われ、イラク特措法の成立が危ぶまれたために、そういう答弁を繰り返したのです。

しかしもちろん、外務省などの現場の担当官は「劣化ウランを使ったのは確かである」ことを認めています。この話し合いでも外務省側は使っていないとは思っていない、し報道を見ればおのずと明らかだと考える、と答えていました。

日本政府は事実を目をつぶり、自衛隊をイラクに送る法律を作るために真実をも犠牲にしたのでした。

この行動に先立ち、広島市の秋葉市長からメッセージが寄せられておりますので紹介します。

このメッセージは外務省にも提出しております。また、様々な意見交換の中で、外務省の担当官は、今後イラクでの支援活動を行うに際しては、劣化ウランも含めた現地の調査を行うことになると、確認しています。

メッセージ

58年前の被爆体験を原点に、核兵器廃絶と恒久平和の実現を訴え続けてきたヒロシマは、平和を願う世界の多くの人々の願いにもかかわらず、今年3月、米英両国がイラク攻撃を開始し、劣化ウラン弾を使用したこと、そして多くの無辜のイラク国民が傷ついたことを極めて遺憾に思っています。ヒロシマの立場は言うまでもなく戦争反対であり、国際的な強調による問題の平和的解決です。人類の英知の結晶である国連憲章を踏みにじり、法の支配そのものを崩壊させかねない今回の攻撃を断じて容認することはできません。

劣化ウラン弾については、湾岸戦争やコソボ空爆後の被害状況から放射能による人体や環境への影響が危惧されており、被爆地ヒロシマは、現時点で因果関係が立証されていないとはいえ、そうした危惧や懸念がある以上、人道的立場から使用すべきではないと考えています。その意味で、「STOP！劣化ウラン弾キャンペーン」の皆様の取組みは、誠に意義深く時宜を得たものであり、深く敬意を表します。また、わが国政府におかれましては、イラクの被曝調査及び医療支援を進めるため、国連に積極的に働きかけて頂くとともに、劣化ウラン弾の非人道性を認識した上で、引き続き廃絶に向け真摯に努力されることを強く要請いたします。

最後に、劣化ウラン弾並びに核兵器の廃絶と恒久平和の実現を願う連帯の輪が大きく広がり、私たちとともに「平和と人道の世紀」を作り出す大きな力となることを心からご期待申し上げます。

2003年(平成15年)7月15日

広島市長 秋葉 忠利

劣化ウラン兵器を
造らせない 持たせない 使わせない

劣化ウラン研究会

〒176 0002 東京都練馬区桜台1 3 5 野村方

E mail: tr2k-tnk@asahi-net.or.jp (田中)

URL: <http://www.jca.apc.org/DUCJ/>

入会方法：通信欄に住所・氏名・電話番号・Eメールアドレスを明記して、
年会費(個人2000円・団体4000円)を下記口座へお振込みください。

郵便振替口座 00100-2-155130 劣化ウラン研究会